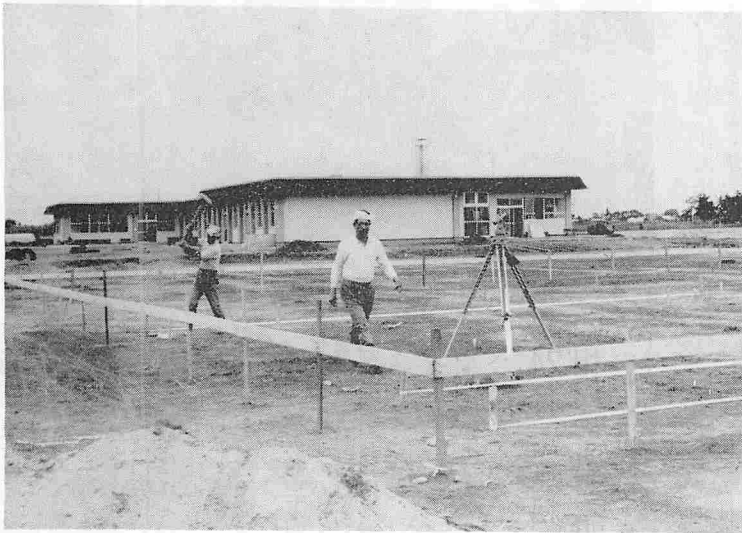


広報てんのう

発行・秋田県天王町役場 電話(018878) 2211~4
編集・企画室 印刷・一日市印刷 電話(018875) 2038

町のうごき	
本籍数	4,942
本籍人口	15,407
世帯数	3,858 (3,756)
住民登録人	14,530 (14,388)
内 { 男	7,059
女	7,471
5月1日現在	
()内は4月1日現在	



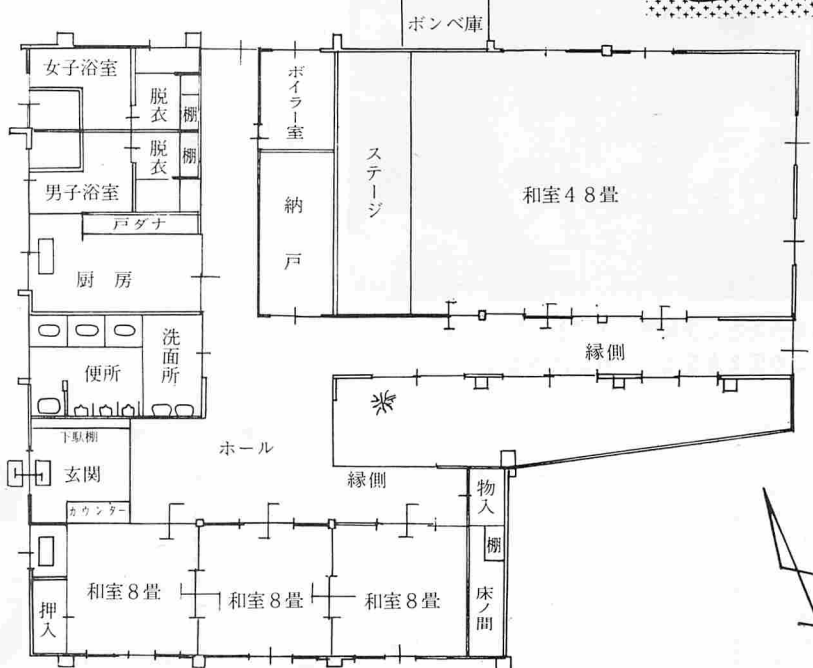
▲基礎工事の準備をする作業員(丁張掛)
5月19日撮影(向こう側の建物は湖岸保育所)

——お年寄りにやすらぎの場を——
 完成は、十月三十一日をメドにしており、ステージ付きの大広間の他、和室が三室、浴室などが備えられることになり、老後の生きがいをつくることに工夫がこらされている。
 いま、町では湖岸地区五部落の約三百六十人のお年寄りたち、「いいこの場」「集会所」として、気軽に安心して利用できるような利用計画を練っている。

湖岸地区に「いいこの家」を建設
老後に生きがいを

完成は十月いっぱいまで

完成図



注目される

大規模工業開発の動向

秋田湾
 第三次全国総合開発計画で扱いが注目される大規模工業基地建設計画について、国土庁では計画実施のため調査だけは五十年度も予定通り進めることを決め調査費を配分した。しかし、むつ小川原、志布志湾、周防灘の三つの開発計画については実施にとりかかる政府側の態勢ができておらずとされているが、「秋田湾開発はやや遅れ、五十二年まで調査が続けられる予定。」
 三全総は安定成長経済下で生活環境優先を目標として、そのため大規模工業基地計画は、

四月と五月に臨時議会

天中給食、運動場の契約など四月三十日と五月十七日に臨時議会が開かれた。
 四月の議会で可決された主なものは、一般会計補正予算案、工事請負契約などで、一般会計

住宅24戸を建設

また、五月十七日の議会では公営住宅(二種)二十四戸分の建築工事の請負契約で、原案どおり可決した。
 契約をする業者は、西村建設伊藤工務所、(有)佐藤組、桜庭建設、(有)むつみ建設の五業者。

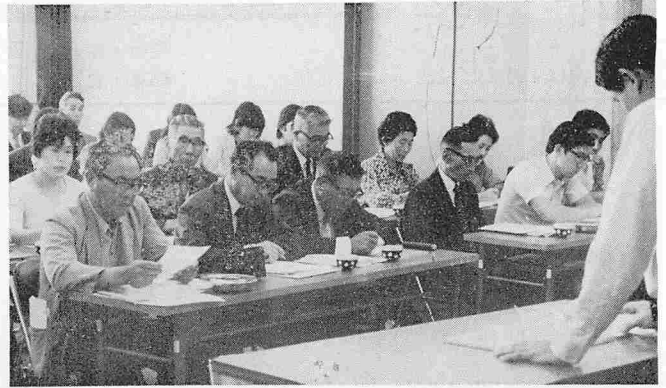
の選挙費に十三万三千円が追加され、総額が八億八千八百万一千円となった。
 工事契約は、五十年当り初算に計上されていた湖岸地区の老人いこの家、天王中給食施設、二年目を迎えた湖岸地区総合運動場の建設事業の請負契約で、原案どおり可決した。

住民50名 鹿島研修へ

こととして3年目

六月二十五日から六月二十八日までの四日間におわたって、本町の各層にわたる住民五十名が先進地である茨城県鹿島臨海工業地帯を視察することが、このほど正式に決まった。

この研修視察は、町独自の計画によるもので、先進工業地帯の公害の状況、産業の動向、福祉、教育等、住民生活及び生活環境をとりまく諸問題について見聞し、認識を深めるとともに秋田湾大規模工業開発計画に当っては住民の意志が充分反映させることのできるよう、昭和四十八年度から行っているものでこととして三年目になるもの。この視察研修の課題と成果は



▲鹿島中央公民館での懇談会（昨年の研修から）

これは、秋田人権よう護委員協議会と秋田地方法務局が開設するもので、土地、家屋の権利問題、親子、夫婦、扶養、相続登記、戸籍、供託、交通事故などの問題でお困りの方は気軽に相談してください。皆さんの相談したことは、秘密に扱われます。当日の相談の担当者は、法務局職員他に、本町の人権よう護委員があたります。

24日に無料人権相談所を開設

六月二十四日、午前十時から午後三時まで追分分館で無料人権法律相談所が開設されます。

参加希望者は分館長とご相談ください。なお、このことについての問い合わせは、役場企画室へご連絡ください。

参加者だけのものに終わることなく、すべての住民の学習の素材になるように、参加者のレポートをまとめ本紙で発表する予定。

研修の主な内容は、鹿島町の各層にわたる住民との話しあいや住友金属を中心とした工業地帯、共同汚水処理場、住宅団地などの視察が盛り込まれている。

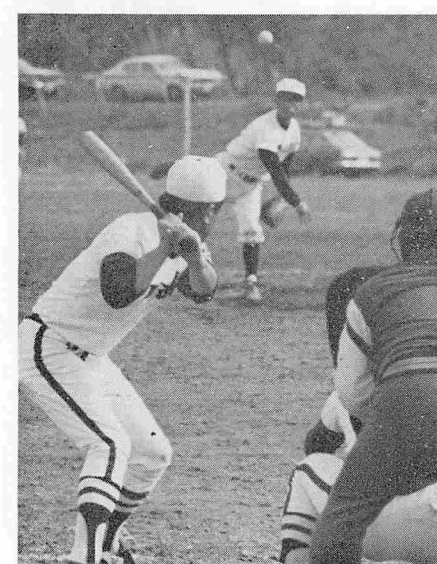
経費は一人約三万四千円になるが、このうち八割（二万七千二百円）は町で負担し、残りの二割（六千八百円）が個人負担になる。

参加希望者は分館長とご相談ください。なお、このことについての問い合わせは、役場企画室へご連絡ください。



民俗資料 コウノトリの松

下出戸の浜山にある黒松でコウノトリが巣をかけたとのこと。樹令は四百年以上かとのことで、今は樹勢も衰えている。村の人々によって長い間守られてきたが、この末何年たつものか。下出戸の村は古くこの松の西の浜辺近くにあったとのこと伝えられている。



▲追分同志の決勝戦 1回追分Bの攻撃
この回2点をとりそれが決勝点となつた

このほど天王町相撲連盟では天王中学校へ相撲場の土俵をプレゼントした。天王中相撲部員、土俵をプレゼントの指導も事業計画画に組み入れており、古くた土俵を一掃することにした。この土俵は、金足農教諭の安田氏に依頼、十五尺（四m五十四cm）の円形の中に長さ二尺（六十cm）の俵二十四個を寄贈、この新しい土俵で中学校相撲部員の練習は、もちろん、全町中相撲場に練習などに利用し、町内のアマチュア相撲競技の普及にひと役買いたいとはりきっている。

追分Bが連勝

町内に住む三十五歳以上の人を対象にした第三回目のOB野球大会が五月十八日に天王中グラウンドで行われ、追分Bチームが二年連続優勝に輝いた。第一回の追分同好会Aチームを含めると三連勝になる。

△成績は次のとおり▽

一回戦	追分A	10	1	二田新町
	東潮ヤン	8	5	江川
	ガイズ	4	3	天王
	追分B	9	8	下出戸
	曲町	4	3	ミックス
準決勝	追分A	16	10	東潮ヤン
	追分B	17	0	ガイズ
決勝	追分B	2	1	追分A

自衛官へのコース

自衛隊で次の自衛官を募集しております。

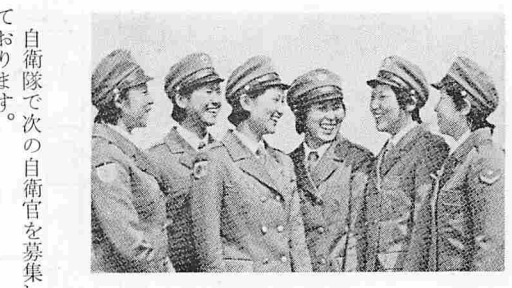
▼募集期間
二等陸士、二等海士、二等空士、昭和五十年四月一日から同年六月三十日まで

▼処遇
俸給月額 二等陸海空士 五八、二〇〇円 一等陸海空士 六三、五〇〇円 二等陸海空士長 六六、七〇〇円 九二、一〇〇円 三等陸海空曹 七二、五〇〇円 一四二、五〇〇円

ボナナス 三月〇・五カ月分
六月二・〇カ月分 十二月二・七カ月分 計五・二カ月分

なお「婦人の社会的役割の向上」という社会的背景のもとに、一般婦人隊員を採用しています。

職種は女性に適する、テレタイプ、通信、写真、文書、会計、補給等で、身分処遇は男子自衛官と変わりなく、曹幹部への道もひらかれています。



自衛官へのコース

全県社会人ラグビー

天王クラブ健闘

決勝で市役所に敗る

五月十日から行われた「五十年度春季社会人ラグビー大会」で、本町の天王クラブチームが健闘、準優勝に輝いた。

まず初戦は、日鉾船川との対戦であったが棄権のため不戦勝。二日目の十一日には、前日県庁を撃破している秋田内鉾山と決勝進出をかけて対戦、モールからのボールの継ぎ、オープン攻撃など、多彩に攻めつけ、着々とトライ、前半10-0、後半26-0と、得点合計36-0で秋田内鉾山を圧倒した。

しかし、最終日の十二日に二連勝を飾っている強豪秋田市役所との決勝戦では、最後まで試合を拵えずに粘ったが、実力の差はどうにもならず39-8で涙のんだ。

同クラブは、町内のラグビー愛好者を主体にチーム編成。定期的な練習を重ねているが、それぞれ職場が違うため、全員参加で練習する機会が得られない悩みをかかえながらも決勝までコマを進めた成果は賞賛に値するものであった。



▲天王クレー市役所、決勝戦 ラインアウトからのボールをとる天王クラブチーム（横ジマのジャージー）

今後、さらに練習を積み重ね打倒秋田市役所を目指すことを期待したい。

準決勝

天王クラブ 36 (26|10) 0 秋田内鉾山

決勝

秋田市役所 39 (26|13) 8 天王クラブ

健康の躍動

町内の小学校で多彩に運動会

など三十種目近くの競技を楽しんだ。ことし入学したばかりの一年生と父兄、来賓が対抗する恒例



▶手におさまらない太い綱を引つばる一年生（東湖小にて）

ヨイ、ドーン……、町内四小学校の運動会が、五月三日（天王小、東湖小、出戸小）同日（追分小）に行われた。

各校とも競技種目に趣向をこらし、鯉のぼりをついでリレーする「鯉の飛び」ハジゴを利用したの「チンチン電車」父兄児童がいっしょになってジャンカを踊る「ジェンシーボール」

研究グループ巡り

下戸生活学級

下戸生活学級の発足は古くかれ二十五年にもなる。人数も多く、二十五名。若手婦人中心のグループだが、十年間も研修をつづけ、意気盛んである。ことしも四月早々会合を開き、委員の綱引きでは、手にあまる太い綱を「ヨインヨ、ヨインヨ」と引つばり、かわいい手もこの日ばかりはたくましく目に写った。

この日朝早くから手弁当を持ち込んでグラウンドに陣取ったおとうさん、おかあさんたちも我が子の競技に手を振りながら立ち上がったの応援、しばし日頃の忙しさを忘れていた。澄みわたった青空に子どもたちの健康があざやかに写し出され、どの顔も懸命にがんばった満足感で満ちあふれていた。



長に佐々木璋子さん、副委員長に加賀谷テッヨさん、会計に錦織清子さんを選んで力強いスタートを切った。年間十二回の会合を予定し、毎月五日を集会日に定め、ことしは料理実習、着付講習、手芸品製作などを予定し、学習以外にバレーボール、踊りなどで健康増進をはかり、また、社会見学などの親睦会も取り入れて楽しみながら地域の問題点にふれ、その発展に尽したいとのことである。

珍妙な

スタイルに爆笑

三軒屋でミニ運動会

五月十八日の家庭の日、三軒屋部落の運動会が同地区にある服装学院グラウンドで行われた。わずかに九戸という同部落だがそれだけにまとまりもあり、幼稚園児からおじいさん、おばあさんまで競技に参加、種目もラムネ飲み競走、親子リレー、アベック競走、タイヤ回し、夫婦二人三脚など、全部で十一種目。

開会式を終えたあと町民体操でからだをほぐし競技にのぞんだ。親子リレーでは、両親と子ども一人で一チームを編成、片足にナガクツ、もう一方にはスリッパ、手にはカサという珍妙なスタイルでリレー、会場は爆笑の渦となる一幕もあり、五月晴れのもと、全部落民でミニ運動会を楽しんだ。

落からの協力も充分である。どの会員も口をそろえて、からだの調子がいよ、生活に充実感が出た、家庭が明るくなったなどとよろこんでいる。新聞の婦人欄を見て話し合う下戸の学級生



短歌

天王町短歌会四月会より
追分 佐藤 正一
激戦の生死の中にあつて尚ベン
走らせし若きものふ
天王 保坂広治郎
潮香る落素足で駆けてみき壮年の
われを少年にして

二田 上法 香苗
ひんがしの土手に若草もえいで
て蓬にまじる土筆なつかし
二田 太田 ユキ
上京の孫との文通たのしみに八
十路をすぎし母の手習い
二田 渡部 ツナ
英語読む明治の父が発音をおか
しと云いつ子等のおどろき

